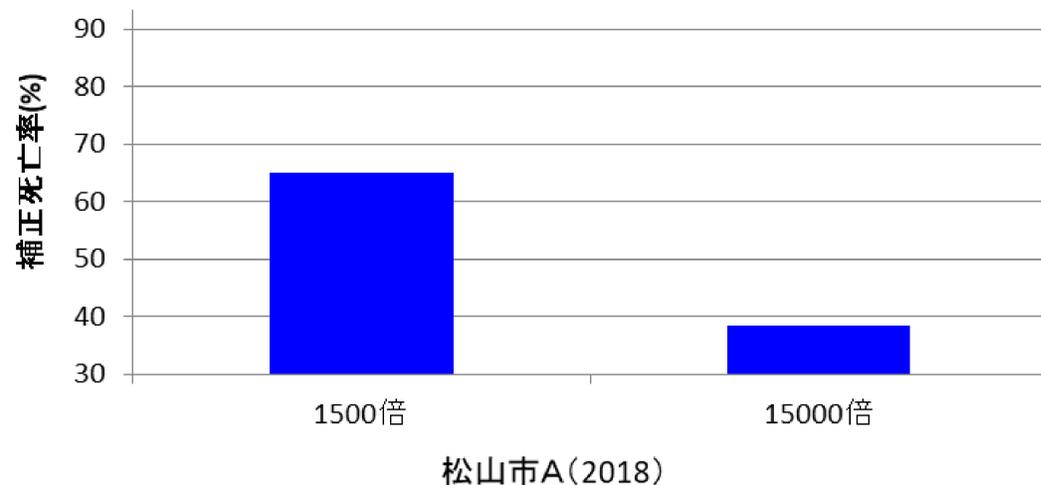
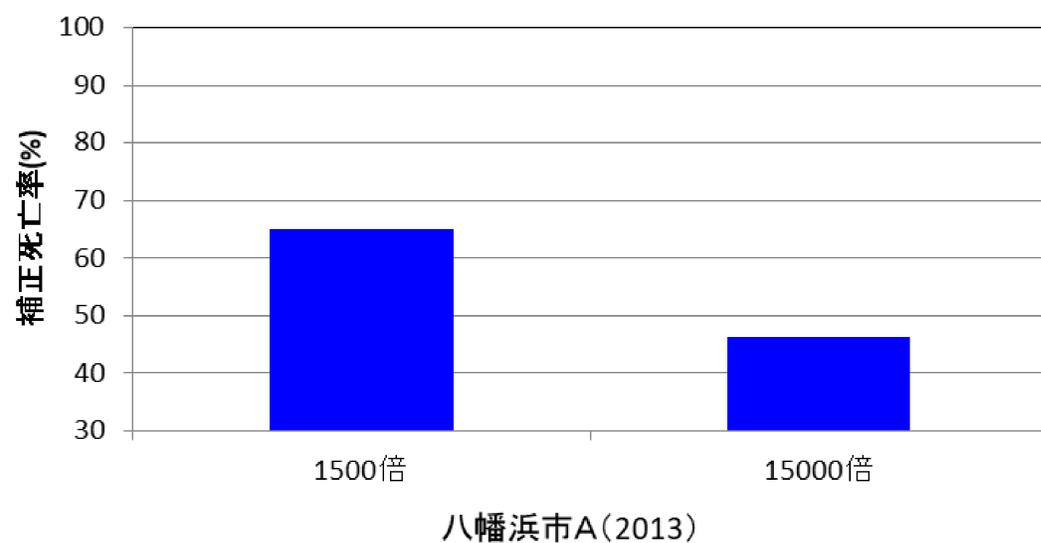


中予における薬剤感受性低下ヤノネカイガラムシの確認

ヤノネカイガラムシ（以下ヤノネ）に対しアプロード剤は効果が高く、1986年に愛媛県病害虫等防除指針に採用され長年使用されてきた。しかし、1999年ころより南予地域では、本剤の効果が低下した地域が見られ、本年、中予でも同様に効果の低下が見られる地域が確認された。

ヤノネ2齢幼虫に対するアプロード水和剤の効果



試験は、ポット植えサワーオレンジに寄生させた雌2齢幼虫にハントスプレーで薬剤を散布し行った。

アプロード剤によるヤノネに対する効果低下は、中予でも南予と同程度のものではあった。雌2齢幼虫に対し、低濃度(15000倍)では、感受性の低下が顕著に見られ、実用濃度(1500倍)でも効果が低下している。



写真 雌成虫(左)と2齢幼虫(右)

アプロード剤を用いた防除は、その剤の特徴から、早い時期(第1世代:初発日の20~25日後)の防除の効果が高い。適切な時期に散布を行った上で、防除効果の低下を感じたら、他系統の薬剤(スプラサイドやアルバリン、トランスフォームなど)を用いた防除を行う。